

# 林業とくしま



(千年の森ふれあい館)



(スタッフ紹介)



(式典)



(記念講演)

「千年の森ふれあい館」が勝浦郡上勝町旭に完成  
平成15年7月17日オープン!

森と人との共生(森と水と人々の暮らし)をテーマに、展示学習室、レクチャールーム、体験作業所等が設置されています。お出かけください (問い合わせ先 TEL/FAX 08854-4-6680)



「絶やさずに  
ふやしていこうよ 緑と笑顔」

(平成15年徳島県緑化標語優秀作品)

阿波中学校2年

鎌田 真梨子さんの作品

No. 265  
2003.7

# やまびこ

## 森林組合の

### 広域合併について

徳島中央森林組合  
代表理事組合長

橋本純

大型広域組合となりました。

県民のみどりや森林に対する期待は大きいものがある中で、森林業は材価の低迷の中、一段と厳しい状況が続いております。

これらのことから私たちは、地域林業の中核的担い手として、組合員の様々な付託に応えるよう基盤強化された森林組合を目指して、平成十四年十月、徳島中央森林組合を発足致しました。

組織は、神山町に本所を、勝浦町と上勝町に支所を、徳島市と佐那河内村には出張所を設置しております。また森林組合の区域は、これまでの5市町村のうえに小松島市と石井町を加え、区域面積三万六千ha、組合員数四八四六名、拠点数二十名、職員数二三名の県下最大級の

で進めたい。

3 利用部門では作業道開設を推進し、搬出費及び森林管理費を低減したい。

4 担い手確保は、重要な課題として、若手林業技術者、林業研究グループの育成等支援したい。

5 広域に展開する支所、出張所等の連携と情報交換を密にしたい。これらの事項を柱にし、積極的に事業推進を図りたいと考えております。

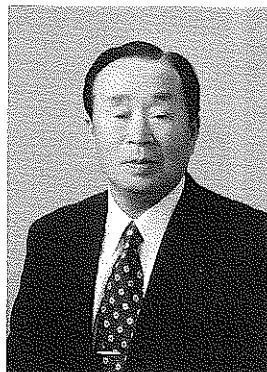
これらの着実な達成のために、組合員の皆さんのご協力とご支援とともに、関係市町村、県のご指導ご支援を今後ともよろしくお願い致します。

区域の林業状況は、上勝、神山の林業地域、勝浦、佐那河内の農林業地域、徳島、小松島、石井の都市地域と変化に富み、河川流域も勝浦川、鮎喰川、園瀬川、吉野川と四流にわたり、このため多様で幅広い組合員からの要望を的確に把握し、地域協調を図りながら時代に適応した林業経営を推進していくことが肝要と心しております。

このため徳島中央森林組合は、新しい時代へ向けて

1 指導部門では、職員のさらなる研修研鑽と共に組合員とのコミュニケーションの推進のため広報活動をより進めたい。

2 販売部門では、間伐材生産と利用販売の推進を森林整備と両輪



## もくじ (林業とくしま 265号)

やまびこ(森林組合の広域合併について).....	2	林研とみんなの情報交流コーナー.....	8
鉄人コーナー(作業道開設名人).....	4	技術情報(マツタケ山のつくりかた).....	10
(「謎のピンクのテープ」の正体は).....	4	阿波だぬき(林業普及懇話会の結成について).....	12
林政の窓(平成15年度林業関係予算).....	4	東西南北.....	13
特集(全国育樹祭室の設置について).....	6	広告.....	15

# 鉄人コーナー

## 作業道開設名人

美郷村

### 鎌倉忠男氏

鎌倉さんは、平成七年頃から自家山林に作業道を抜き始め、現在までに約一、〇〇〇メートル開設し、年間一ヘクタール程度の搬出間伐や枝打ちに精を出されています。

経営面積は八ヘクタールと美郷村では平均的な規模ですが、家の裏山にスギ・ヒノキの人工林が一団地に六ヘクタールまとまっており、集約的な施業を可能にしています。

作業道の開設は、自家山林よりも人に頼まれる方が多く、土建屋さんの床掘作業に行くこともあるとのことでした。まるでプロみたいただと思ってよく聞いてみると、徳島市内の建設会社で三〇年以上バックホーのオペレーターをされていたということであり、本当のプロがありました。

自家山林内の作業道に案内して頂くと、傾斜はかなり急であるが

法面や路面が傷んでおらず、このところ雨が多かつたことを考えるとさすがは名人の仕事という感じでした。

美郷村では作業道の開設が大いに進んでいますが、その陰には鎌倉さんのような名人の活躍があつたということが今回の取材でよく解りました。今後も健康に留意され、益々作業道の延長を延ばすとともに、後進の指導にも当たられることをお願いしたいものです。

経営面積は八ヘクタールと美郷村では平均的な規模ですが、家の裏山にスギ・ヒノキの人工林が一団地に六ヘクタールまとまっており、集約的な施業を可能にしています。

鎌倉さんは、平成七年頃から自家山林に作業道を抜き始め、現在までに約一、〇〇〇メートル開設し、年間一ヘクタール程度の搬出間伐や枝打ちに精を出されています。



## 「謎のピンクのテープ」の正体は

木屋平村

### 谷内雅昭氏

木屋平村の道を車で走っている所にピンクのテープがとり付けられています。

これは、木屋平村が平成十一年から取り組んでいる森林境界調査の境の目印となっています。調査は、村から株式会社ウッドピアへ委託され、これまで約千ヘクタールの調査が行われています。

今回は、この調査の中心として活躍しているウッドピアの谷内雅昭さんを紹介します。

谷内さんは平成十二年に大阪府よりＩターンでウッドピアに就職しました。持ち前の明るさと行動力で地域の方ともうちとけ、今ではウッドピアにはなくてはならない存在です。

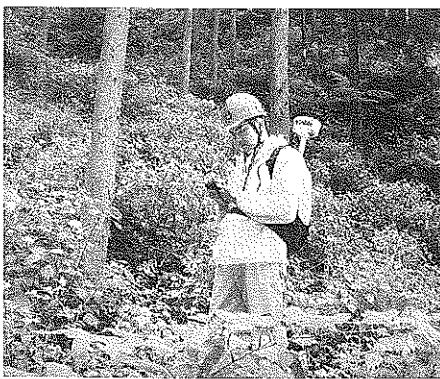
境界調査は、①地域での説明会②所有者立会のもと境界確定及び杭打ち作業③谷内さんと調査地域の世話人の二人での境界測量④森林資源調査⑤調査結果と

りまとめ及び報告書の作成の手順で行われます。

最初は村内の測量機器であるコンパスを使ったことがない上に、所有者の理解が得られず苦労しました

たそうですが、現在では調査の目的を所有者も理解し、積極的に調査に協力してくれるそうです。また、測量についても、コンパス・GPSを箇所により使い分け、より精度の高い調査ができるようになつたそうです。

今後は、これまでの調査の成果と人のつながりをもとに、間伐を中心とした森林整備の推進を図ると共に、林業家としての技術向上を目指して行きたいとのことです。





# 林政の窓

- 体制を整備するため、住宅手当や災害保険料への助成を行います。
- ◆事業実施主体 市町村、林業事業体
  - ◆補助率 二分の一以内(上限設定)
  - ◆実施期間 平成十五～十七年度
- 七 德島すぎ地産地消推進事業**
- 一〇、〇〇〇千円
- ◆受領者 地場産業の振興や県産木材の普及啓発等を図るため、条件を満たす新築住宅について、徳島すぎ構造材の一部を無償提供します。
  - ◆事業実施主体 徳島県
- 八 木質バイオマス利用推進事業
- ◆提供内容 柱(十二c m角)は八〇本を上限、梁桁材は二・五立方メートル程度(価格上限は二〇万円)
  - ◆提供条件 住宅を建築し自ら居住する者
  - ◆実施期間 平成十五年度
  - ◆提供戸数 五〇戸

六、〇〇〇千円

木くず等を地域の貴重な工ネルギー源として有効利用を図るため、木質バイオマスの利用システムの構築に向けた研究や実証試験、普及啓発活動を実施する。

◆事業実施主体 県

◆実施期間 平成十五～十六年度

**九 千年の森づくり推進事業**

三九、五〇〇千円

県民参加による森づくり運動を全県的に展開するため、森づくり活動拠点の整備やそれをサポートする人材育成等を行い、推進体制を整備します。

◆事業実施主体 県

◆実施期間 平成十四～十六年度

このほか平成十三年度からで整備をしておりました「千年の森ふれあい館(上勝町)」が今年七月開館します。皆様方のご来館をお待ちしております。

◆実施期間 平成十四～十六年度

- 柱(十二c m角)は八〇本を上限、梁桁材は二・五立方メートル程度(価格上限は二〇万円)
- 構造材に徳島すぎを七〇%以上を使用すること等

単位:千円、%

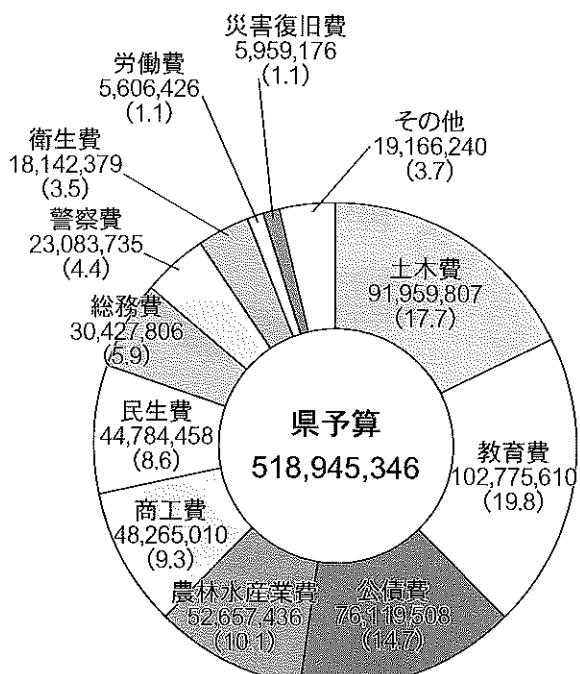
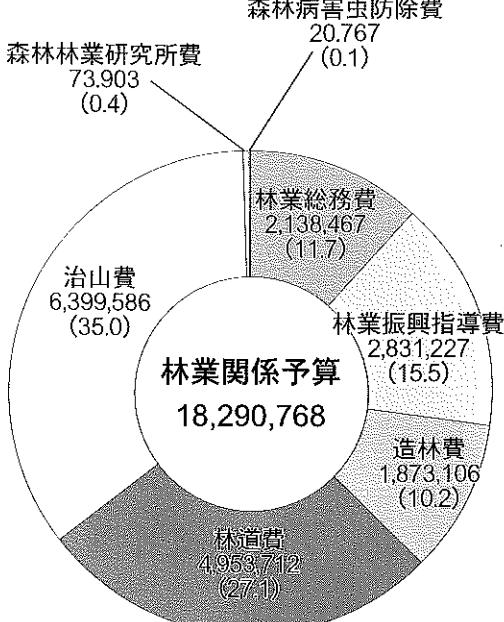


図-1

図-2

八 木質バイオマス利用推進事業



八 木質バイオマス利用推進事業

# 「全国育樹祭」設置について

## 一 はじめに

「全国育樹祭」は、国土緑化運動の一環として、森林の手入れを通じ活力ある緑の造成気運を高め、次代への連帯感を深めることを目的に、昭和五十一年の岐阜県での「育林祭」の開催を先駆けに、翌年昭和五十二年には名称を「育樹祭」に改め、今日に至っています。

植樹を通じた国土緑化運動である春の全国植樹祭と並んで、国民的な緑の祭典として、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、全国の都道府県持ち回りで毎年秋に開催しています。

森林は、木材の供給はもとより国土の保全や水源のかん養など、

人間が社会生活を営む中でこのうえない恵みとやすらぎをもたらしてくれます。

このような大切な森林の恵みに感謝し、「二十一世紀を担う子供達に緑を守り育てて引き継ぐためには、それぞれの地域にふさわしい豊かな森林づくりを、県民参加により展開する必要があります。この気運を地球規模へと広げることを目指して「広げよう青い地球」を大会テーマに「第二十八回全国育樹祭」を開催します。

## 三 これまでの経過

平成十四年度に、第二十八回全



「国育樹祭」の大会PRのため活用していきます。

平成十六年秋季には、「第二十八回全国育樹祭」を徳島県立神山森林公園において開催することが決定しており、これは、四国地方では平成四年の高知県に次いで二県目の開催となります。

## 二 開催目的

森林は、木材の供給はもとより

国土の保全や水源のかん養など、

# 特集

## 四 全国育樹祭室とは

全国育樹祭室は、「第二十八回全国育樹祭」の計画、実施及び運営などを円滑に行うために平成十五年度に林業振興課の課内室として新しく設置されました。

七田室長以下、室長補佐、総務企画担当と事業推進担当の専従職員八名から構成され、平成十六年秋の県立神山森林公園での開催に向けて、着々と準備を進めています。

### イメージソング歌詞の募集中

第28回全国育樹祭をPRするのにふさわしいイメージソングの歌詞を全国から募集しています。

【応募方法】A4サイズの用紙に歌詞と題名を記入して、応募用紙と合わせて育樹祭室まで送付してください。詳しい内容と応募用紙等については、徳島県のホームページをご覧ください。

URL (<http://www.pref.tokushima.jp/>)

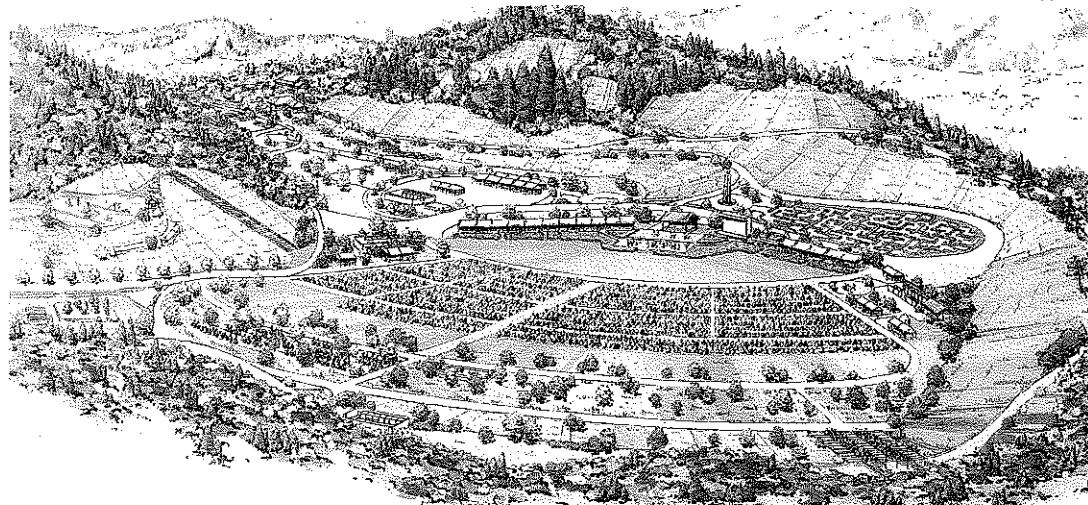
【応募締切】平成15年9月10日(水) ※必着

【入選作品】最優秀 10万円 優秀賞 2万円

【問い合わせ先】徳島県全国育樹祭室へ(088-621-2413)

育樹祭を通じて、  
育樹活動の定着

化や緑化運動の  
気運を盛り上げ  
ていくことができる  
ように取り組んでまいります  
ので、皆様方の  
御支援、御協力を  
よろしくお願ひ  
いたします。



第28回全国育樹祭予想図

## 第五六回全国植樹祭

### シンボルマーク大募集

平成十七年春季、茨城県で開催される第五十六回全国植樹祭のシンボルマークを次のとおり募集しています。ふるってご応募下さい。

【応募方法】●封書による郵送とする。●A4サイズの白紙にデザイン(色つけ自由)し、作品の裏に制作の意図、住所、氏名(ふりがな)、年齢、性別、職業(又は学校名、学年)及び電話番号を記入する。●作品は、一人につき何点でも応募可能。ただし、自作、未発表のものに限る。

【締切】●平成十五年九月十日(水)  
※詳細はホームページ  
<http://syokujisai.pref.ibaraki.jp/>に掲載しています。  
【応募先及び問い合わせ先】●茨城県農林水産部林政課全国植樹祭準備室「シンボルマーク募集」係  
〒310-18555

(宛先の住所は不要)

TEL ○二九一三〇一四〇三四

## 林研とみんなの情報交流コーナー

### 徳島地区製材業 後継者懇談会開催

平成十五年六月三日に徳島合同庁舎で、上勝町・勝浦町・神山町の製材業の後継者が集まり、徳島地区製材業後継者懇談会を開催しました。

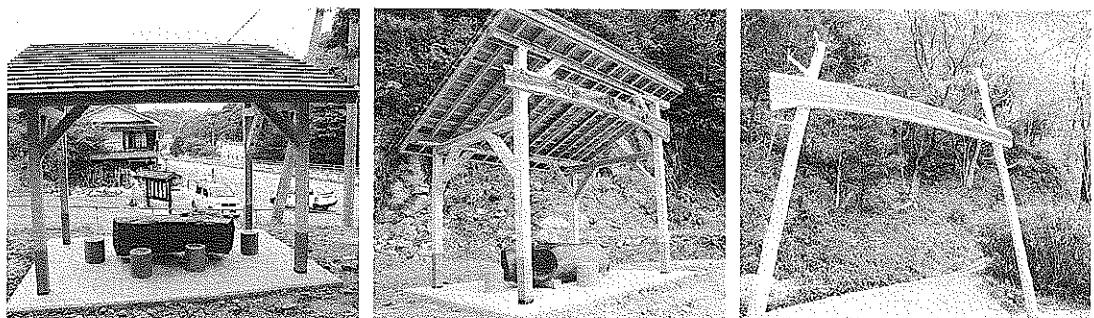
懇談会の内容については、お互いの自己紹介から始まり、フリートーク形式で、それぞれの製材業の現状や問題点や、将来の構想などについて、意見交換しました。その中で、七月に製材技術視察研修会を行うこと、毎月一回程度は、懇談会をもつことなどが決まりました。又、今回の懇談会には参加できなかつたメンバーにも参加を呼びかけることが決りました。

徳島地区は、家族経営的な製材業が多く、後継者も比較的多数定着しており、その様な中で製材業の後継者が定期的に集まり、町村を越えて、お互いの現状や、問題点や将来を語り合う場として、継続して見守つていきたいと考えています。

徳島農林事務所 張西郁男

日和佐農林事務所 井坂利章

### 「漁り火の森公園近く に休憩施設が完成」



休憩施設

入口木製看板

PRパンフを作成し、葉枯らし乾燥によるコスト、材質、価格面でのメリット、製材業者の意見や実際の作業工程などを示し、積極的な出材を喚起する予定です。

また、昨年に引き続き、今年も葉枯らし間伐を普及する現地講習会などを開催する計画。平成十二年には一人だった出材者が平成十四年には二十人に、取扱量も千二百立方メートルと次第に林研活動の成果も見えてきています。

低迷する原木価格に対し、附加值が認められる商品、「葉枯らし乾燥間伐材なら美馬木材センター」を目指して、林研活動は今も全開です。

脇町農林事務所 岩野泰三

### 「葉枯らし乾燥」の 間伐材産地化をめざして!

## 林研とみんなの情報交流コーナー

椎茸の植菌体験学習会をしたりとますます活動も幅広くなっています。この日の総会では、展示林をさらに増やして山の手入れの大切さをPRしていくことや緊急間伐団地を設定することでも会員の意見が一致しました。また、併せて林業に関する勉強会ということで、三好木材センターから講師を招き、原木価格の近況や出材の時期等アドバイスを受けたり、林務課の間伐補助事業の話にも熱心に聞き入っていました。この日は、夜遅く

木士会(山下修会長) 二十人の総  
去る五月二十九日 三加茂町選

三加茂町選木上会が開催される



まで林業についての語で盛り上がりました。三加茂町は最近は宅地化も進んでいますが、町内にものだけたくさんある林業への熱い思いを持つた人たちがいることを実感した一日でした。

生徒が自らの手で植栽した森林です。その後の下刈り等の手入れもおこなつきました。

一名の西井川林業クラブの会員を代表し、会長から森林の役割や大切さの話がありました。その後枝打ち機の実演のあと、スギ林に入り、枝打ち間伐をおこないました。生徒の中には何本もの立木を次々に伐倒するパワフルな子もいました。

そして伐倒したスギ材の皮を全員で剥きました。その剥皮したスギ材は後日林業クラブの手でベンチにし、小学校に寄贈するとのことです。

していくことや緊急間伐団地を設定する」と、会員の意見が一致しました。また、併せて林業に関する勉強会ということで、三好木材センターから講師を招き、原木価格の近況や出材

平成十五年六月六日に西井川小学校の五、六年生三十二名を対象に森林・林業教室が開催されました。

場所は学校から徒歩二十分のところです。平成三年に西井川小学校の

西井川小学校と西井川林業  
クラブの交流会の開催



## ～林研グループ連絡協議会からのおねがい～ 「林研グループ紹介」のタイトルを募集します。

本会もお陰様で会員数52名(平成15年3月末現在)を数えるに至りました。  
それぞれの地域で活躍するグループについて、逐次、ご紹介(1グループ:A4表裏程度)したいと思います。

「あなたのタイトル名(例えは「林研便り」「林研紹介|etc)を広く募集」します。

この用語のタイトル名(例えば「林研便り」、「林インパクトの来るタイトルを考えてください」)

あなたのハートにあるタイトルを考えてくれ。ふるってのご提案をお願いします(賞品は無いかも知れないけど) よろしく。

ふるついのこ提案をお願いします(貢品は無いかもしれないけれど)、ようしく不提出期限:平成15年8月30日

提出期限：平成15年8月30日  
提出先：〒770-0030 徳島

提出先:〒770-0939 徳島市かちどき橋1丁目41(林業センター内)  
徳島県林業総合研究センター 地図

## 徳島県林研グループ連絡協議会事務局宛

# マツタケ山のつくりかた

徳島県立農林水産総合技術センター 森林林業研究所

森林生産担当専門研究員兼科長 阿部 正範

マツタケは「菌根性きのこ」の仲間で、生きた樹木の根から栄養分を得て生活をするのです。そのため、枯木から栄養分を吸収して育つ「腐生性きのこ」の仲間であるシイタケやナメ、エノキタケと異なり人工栽培が困難なのが、つくりかたです。

マツタケの全国生産量は、昭和十六年の約一二〇〇〇トンを最高に近年ではその六〇分の一の約二〇〇トンまで減少しています。その原因としてアカマツ林の環境が悪化したことがあげられます。人手が入らなくなつたアカマツ林は雑木や雑草が繁茂し、落ち葉が林地に厚く積もり、その上マツクライムシによるマツ枯れによりマツタケ菌の繁殖に不適な環境となっています。

試験研究機関では、マツタケ等「菌根

- マツタケ山づくりの施業は、植生の手入れと地表の整備に分かれます。
- 「マツの菌根研究班」を結成し、毎年、研究成果の発表や意見交換を行っています。徳島県もこの研究会に参加しています。今回は、「マツの菌根研究班」の成果の一部である、環境の悪化したアカマツ林を整備し、マツタケ菌を誘導、繁殖させる「マツタケ山のつくりかた」について紹介します。
- マツタケ山に適したアカマツ林の調査
- マツタケ山づくりの基礎となる調査です。次のすべての項目にパスしなければ適地と見なすことはできません。
- 林齢は三五年生まで。
- 林型はアカマツが主体の林が適している。広葉樹が主体のアカマツ林は不適なので除く。
- 母材は、石灰岩は不適。

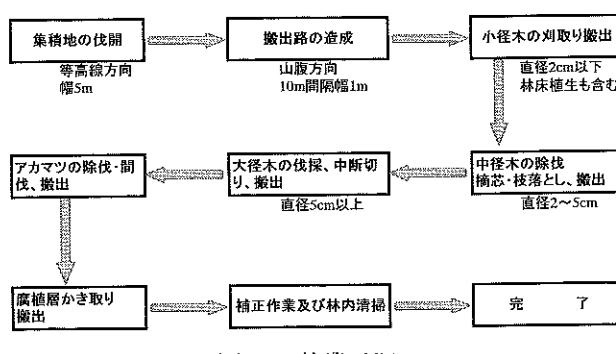


図-1 施業手順

- 地形は、尾根から山頂は適、凹型斜面や山麓は不適。  
もちろん、過去にマツタケが発生したことのある山が適地の前提となることは言つまでもありません。

## 二 施業の手順

マツタケ山づくりの施業は、植生の手入れと地表の整備に分かれます。図-1の施業手順を参考に施業を効率的に行います。

マツタケ山づくりの施業は、植生の手入れと地表の整備に分かれます。図-1の施業手順を参考に施業を効率的に行います。

アカマツ林の樹高が十五mの場合、ha当たりの生育本数が一、〇〇〇～一、五〇〇本に、樹高が十mの場合一、〇〇〇～二、〇〇〇本になるよう間伐して、立木本数を調整します。

アカマツ林の樹高が十五mの場合、ha当たりの生育本数が一、〇〇〇～一、五〇〇本に、樹高が十mの場合一、〇〇〇～二、〇〇〇本になるよう間伐して、立木本数を調整します。

## ● 落葉樹などの整理

一平方メートルにアカマツを含め二本前後残すように過密植生の伐採を行います。直径五cm以上の広葉樹やアカマツと競合しているものは、地上一・五m～〇mの高さで伐るか、根元から伐採します。残った広葉樹も光の入り具合を考慮しながら剪定や枝落としをします。低いかん木、シダ類、ササは取り除きます。切り

## 三 施業の内容

### ● アカマツの保育

マツの根に寄生したマツタケは、マツの樹勢が悪いと十分養分をもらうことができません。たくさん発生するマツタケ山を作るのは、枝張りのよいしっかりした

マツを育てることが大切です。そのため、枯損木、被圧木、衰弱木などは除去します。また、マツクライムシ被害木は、伐倒駆除して搬出します。

アカマツ林の樹高が十五mの場合、ha当たりの生育本数が一、〇〇〇～一、五〇〇本に、樹高が十mの場合一、〇〇〇～二、〇〇〇本になるよう間伐して、立木本数を調整します。

# 技術情報

株はできるだけ低くします。また、次年度以降の萌芽を抑制するためにはツツジ類などの株立ちしているものは二～三本残して伐採します。一般に伐採対象木とするものは、成長が早く、落葉量の多いウラジロノキ、コシアブラ、リョウブ、ナラ、クリなどで、逆にヒサカキ、アセビ、ツツジ、ネジキなどは残します。なお、この作業は、日陰の確認や樹種の判定がしやすい夏期に行うのがよいでしょう。

## ● 落ち葉と腐植のかき取り

落葉量が多く、腐植層が厚い場所では「かき取り」をします。この作業は、アカマツの細根を切つて根に刺激を与え、その結果、根の量を増やす効果があります。また、腐植層をかき取るため地表の環境が変わり、土壤を乾燥させてマツタケの害菌や害虫を除くと言った効果も期待できます。

丁寧に、土が見えるくらいまでかき取ることが大切です。株の周り、くぼ地などは、厚くたまつてるので念入りにかき取りをします。この作業は、秋から冬の晴天に行いうのが良いでしょう。

## 株はできるだけ低くします。また、次年度以降の萌芽を抑制するためにはツツジ類などの株立ちしているものは二～三本残して伐採します。一般に伐採対象木とするものは、成長が早く、落葉量の多いウラジロノキ、コシアブラ、リョウブ、ナラ、クリなどで、逆にヒサカキ、アセビ、ツツジ、ネジキなどは残します。なお、この作業は、日陰の確認や樹種の判定がしやすい夏期に行うのがよいでしょう。

## 四 施業後の保育管理

アカマツ林の環境は、アカマツの間伐、広葉樹の整理により激しく変化します。明るくなった林内は、広葉樹切り株からの萌芽が盛んになり、下草が繁茂して放つておくと元どおりの山になります。これでは、マツタケ山になりません。そのため、施業終了後、二年目以降の保育管理がマツタケ山づくりで大切な作業になります。

## ● 萌芽の整理と草刈り

施業の翌年の夏には、萌芽の整理を主とした手入れを行います。落葉量が多いため、アカマツの草本性のものはすべて刈り取り、株立ちしている萌芽は手でむしり取ります。枝落とし後などの芽吹きなども取り去ります。

## ● 中層木の整形と林型の誘導

一年もすると中斷伐りした切り口や摘芯部から新芽がでてきます。これらは、将来の中層となるものなので手入れは慎重に行います。今一度、アカマツ林を見直して、マツクイムシ被害を防止するためにも、マツタケの発生する山づくりにトライしてみてはいかがでしょうか？

このような作業を三年ぐらい続

けると図-2のような中層のできあがった山となり、林内に陰ができるようになります。こうなると地表のかん木の萌芽や下草なども少なくなり落葉層も安定します。この状態で、マツタケ菌の受け入れ体制はほぼ整えられたことになります。若いアカマツ林の場合、早ければ施業完了三～四年後にはマツタケのシロが形成されます。

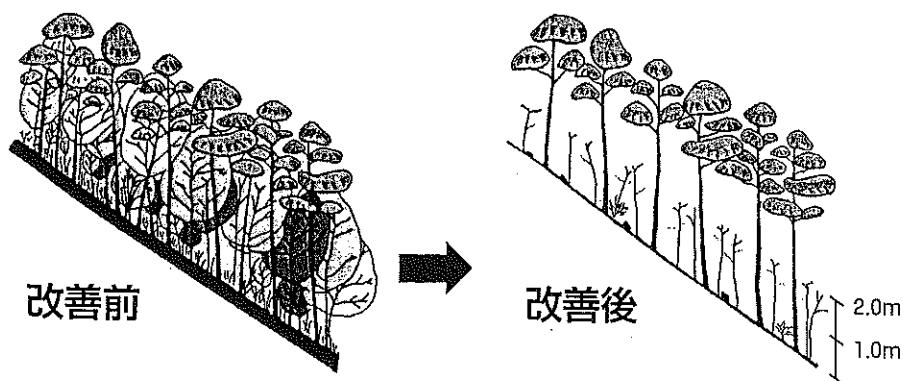


図-2 環境改善の模式図

# 阿波だぬき

## 『林業普及懇話会の結成について』

全国林業普及懇話会徳島支部長

興喜多 滋也



県職員を還暦で退職し、今年は一廻り目の年男になります。公用車が自転車、バイク、車の三世代四〇年を林業普及事業に従事できたことは、御支援と協力をいただいた方々の賜と感謝しているし誇りとも思っています。

三年続きの知事選挙も終わり、本県の発展と安定に対する関心が高まり県政に対する期待は一段と大きくなっていると感じています。

変化の激しい社会経済情勢の中だけに、身近なところから流れに添つた意識を持つて、自分の行動を定めて行かないと進歩や成長の確認を感じることが出来ないのではないかと日頃考えていたもの的具体策がありませんでした。

この度、永年、山村や林業振興

に御努力されている方達に少しでもお役に立つことをやってみたいし、

また、自分も何か出来るという生存証明も欲し、このようなことが有志十名で発足し、全国会議にも届出で「全国林業普及懇話会、徳島県支部」となりました。

年会費は五千円なので会を頼りの事業は少しですが活動費は個人持ちということで、会員達は仕事を通じて得た人間関係を通じて、温存されている知識や技術を要請に応じて人づくり、村づくり、の協力活動を実行しようと計画しました。

発足当初でもあり事業内容に不備は多いのだが順次改善したい。実行するためには、林業普及活動を実施している機関や団体、林業事業主等の協力を得て進めたい、

全国的な山村林業の動向についても情報収集や交換を行い、会の内部でも議論を進め私達もお互いに孤独感や疎外感から解放され、余命を明るくしたいものだと考えて

行政施策として取上げられていることであり、実施のための組織化後継者育成等について協力できる分野を検討するほか、山村の持つ伝統文化の維持、山村住民や林業に従事している人達の自信と誇りを高めることができないかを事業として取上げて行きたい。

発足当初でもあり事業内容に不備は多いのだが順次改善したい。

実行するためには、林業普及活動を実施している機関や団体、林業事業主等の協力を得て進めたい、全国的な山村林業の動向についても情報収集や交換を行い、会の内部でも議論を進め私達もお互いに孤独感や疎外感から解放され、余命を明るくしたいものだと考えて

徳島「千年の森の広葉樹植栽始まる」

平成十六年春のオーブンを目指して整備が進められている上勝町の「千年の森」では、いよいよブナ林の再生を目指しての広葉樹植栽作業が始まりました。植栽されているのは、地元林研グループ「上勝広葉樹苗木生産組合」が育成したケヤキ、イタヤカエデ、キハダ、ミズメなど十六樹種で、雨が多かった今年は、活着も良く、新緑の季節の訪れの中ですくすくと成長しています。

また、千年の森では、植栽木の根元にシュレッダ処理したバークをマルチングし、その効果を検討しています。広葉樹を植栽した場合、どうしても下刈り時の誤伐の危険

があります。今回の作業では、標識効果に加えて、雑草木の抑制効果も期待しており、今後の成長動向を調査していく計画です。

## 徳島「千年の森の広葉樹植栽始まる」



が大きく、何らかの標識設置が必要です。今回の作業では、標識効果に加えて、雑草木の抑制効果も期待しており、今後の成長動向を調査していく計画です。

徳島農林事務所 早田健治

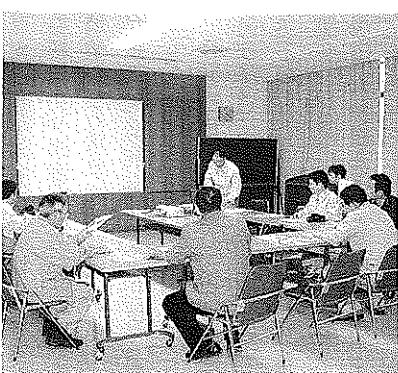


## 日和佐「作業道開設技術研修会」

「作業道開設技術研修会」

五月六日と七日の二日間那賀・海部川(海部)流域活性化センター

の主催で、低コストで環境保全に配慮した道づくりを実施している、高知県幡多郡大正町の役場から二名の講師を招き、作業道の開設技術研修会を開催しました。



今回は、事前に開設した道を教材に現場で指導してもらう方式で行うため、オペレーターを対象として広く県内に呼びかけたところ、六十五名の参加者があり作業道に対する関心の高さを伺い知ることができました。

工法は木造軸組工法の平屋で、床面積は一〇五坪です。柱、梁等の構造材にスギを用い、外壁材はスギ焼板を使用しています。内装では、床に熱処理したムク材を利用するなど、木材の持つ優しさを前面に出しており、地域住宅への地域材利用の普及を目的としています。

字中藪に「西崎住民憩の家」が完成しました。これは、地域材利用促進対策事業により半田町が建設したものです。

## 脇町木造施設「半田町住民憩の家」完成

平成十五年三月、美馬郡半田町

字中藪に「西崎住民憩の家」が完成しました。これは、地域材利用促進対策事業により半田町が建設したものです。工法は木造軸組工法の平屋で、床面積は一〇五坪です。柱、梁等の構造材にスギを用い、外壁材はスギ焼板を使用しています。内装では、床に熱処理したムク材を利用するなど、木材の持つ優しさを前面に出しており、地域住宅への地域材利用の普及を目的としています。ここで使用されたスギなどの地域材の材積は約三十坪です。間取りとしては、展示室、集会室、調理室があり、地域住民や高齢者、子ども会の集会、地域農産物を活用した料理教室などが開催される予定です。

脇町農林事務所 坂田和則

今年度は、本格的にうどん製造に

取り組むため、補助事業で半生麺製造機を購入予定です。現在は、池田合同庁舎近くの「郷土料理うだつ」でしいたけうどんが食べられます。



## 池田

「しいたけうどん  
いがですか。」

池田町の林研グループ「阿波池田やまびこ会」が、平成十五年三月二十一日から二十三日に東京で開かれた「ふるさとの食にっぽんの食全国フェスティバル」に参加しました。東京での販売ということで、日持ちのする半生麺の開発を行い、試食用四〇〇食、販売用三〇〇袋を用意しました。味についても好評で、試食をしておしゃつたと、おみやげとして買っていかれる方も多くいました。三日間ですべて完売し、しいたけうどんを十分P.R.できましたと思っています。

以降に佐野地区に店を構えて、いつでもおいしいうどんを提供する予定なので、こちらにお越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

池田農林事務所 津司知子

## 阿南

### 「素材生産作業システム研修会開催」

昨今の木材価格が低い現状では、効率的な素材の生産システムを確立

する事が急務となっています。そこで、丹生谷では、林業構造改善事業対策協議会と那賀流域林業活性化センターが協同で、素材生産システム研修会を三月二八日と四月二十四日の二日間開催しました。この研修会は、高知県のSTIコンサルタンツの古谷考氏が提唱したシステムで、小型のミニバックホーをベースとしたスイングヤードとプロセッサー、そしてフォワーダの三台を一組で行うもので、研修会では、搬出システムの実演

見交換会が開催されました。地域の森林組合や事業体のみならず、他の地域からも事業体や林研グループが参加し、活発な意見交換がなされました。

今回の研修会では、一m程度の簡易作業道において高密路網とのシステムを活用すれば、搬出間伐の推進につながることがわかりました。今後は、森林組合や事業体においてこのシステムを定着出来るように団地化や路網整備を図る必要を痛感しました。

阿南農林事務所 片山博之

会と古谷氏等の講師による講義と意

## 川島

### 「天絞丸太の 背割機導入」

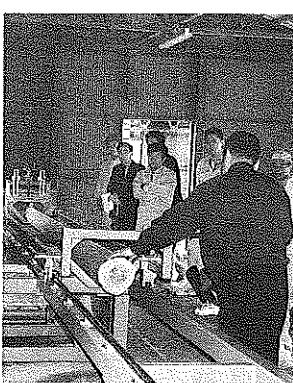
美郷村林業同友研究会では、平



方法の説明を受け、会員の一人が実演を行いました。なお、この機械は今のところ丸太しか背割出来ませんが、付属品を付けることによって角材も背割りができるようになります。

この機械によつて会員の生産する天絞丸太が製品化され、吉野川型木造住宅の床柱になることを願つて止みません。

川島農林事務所 高橋幸次



成十四年度のいきいき活動定着促進事業で背割機を導入しました。背割機といつても本当に割るわけではありません。天然絞り丸太を乾燥したときに、表面に割れが発生しないようにするため、裏側になる部分に予め丸鋸で縦に切れ目を入れるものです。

先日、会員が集まつて研修会を開きました。機械屋さんから使用